

## 愛・地球広場

### 笑顔集う夢空間 1500万人の地球大交流 愛・地球広場

05年日本国際博覧会(愛知万博、愛称=愛・地球博)の「愛・地球広場」。世界各国の人々が集い、一日中にぎわうお祭り広場だ。愛知万博協会が運営し、「メディア朝日」(朝日新聞社、テレビ朝日、朝日放送、名古屋テレビ放送)などが協賛する。最先端の映像、通信、放送設備や新聞といったメディアが融合し、「地球大交流」の舞台を支える。

メイン入場口の北ゲートから入り、空中回廊「グローバル・ループ」の上から南に目をやると、もうそこが愛・地球広場だ。

1500万人を予定している入場者のほとんど全員が目にする場所。広さは約1万4千平方メートルで、中央の人工芝部分には約3千人が座ることができる。周囲には、総合案内所や休憩施設も設ける。広場のテーマは「ザ・ワールド・イズ・ワン——きっと、ひとつになれる」。万博協会は「イベント広場」ではなく「コミュニケーション広場」と位置づけている。

広場の正面には、横20メートル、縦8メートルの大型映像装置「エキスポビジョン」。大画面の前の屋根付きのステージでは、公式参加国のナショナルデーイベントやコンサートが日々繰り広げられる。万博協会は、この広場でシンボル企画「メリーエキスポ」を展開する。

メリーは「しあわせな」とか「陽気な」という意味だ。大震災やテロから立ち直る人々の笑顔の写真で有名な水谷孝次さんが20カ国を回り、約5千人の笑顔撮影。エキスポビジョンで紹介する。会場に集まった人たちの笑顔も登場する。携帯電話から送った自分や家族の笑顔写真とメッセージが目前の大画面に大写しに。さらに、その笑顔掲載した世界で1部しかない個人向け新聞「マイペーパー」を朝日新聞社が発行する。大画面のクイズに携帯で答える企画も。

夕方になると、ステージでは連日、アーティスト石井竜也さんが総合プロデュースする着ぐるみ人形劇「精霊たちの森林舞踏会」を上演

ほかにも、各国の人たちが参加する「地球大交流」を体感できるような企画が練られている。

エキスポビジョンの後ろには、高さ25メートルの緑の塔2本。塔の上に樹木も茂る「天空鎮守の森」だ。その脇には幅150メートルの垂直緑化壁をもつ「バイオ・ラング」に季節の植物が茂る。直訳すると「生物の肺」。夜には霧を吹き出し、発光ダイオード(LED)による光のショーも展開される。

広場を見通せる位置には、世界の料理が楽しめるレストランやフードコートが並び、食事をしながら催しや映像が楽しめる。広場の様子はグローバル・ループからも一望できる。

#### ○マイペーパー 携帯パチリ、笑顔掲載 朝日新聞社

朝日新聞社が愛・地球広場の新聞発行所で製作する「マイペーパー」は、来場者の笑顔とメッセージが掲載された新聞だ。その日のニュースや会場の話題を載せるため、どんな日に万博を見に来たのかかわかる記念新聞にもなる。

笑顔の写真は、万博協会がドコモの協力で携帯電話から受け付け、採用が決まると、アクセスIDが携帯電話に送られる。新聞発行所を訪ねてIDを伝え、マイペーパーを受け取れる。受け取りに行けない場合でも他の人に発行されることはない。写真は、広場のエキスポビジョンにも登場する。個人向けにしたのは、発行した新聞を確実に持ち帰ってもらい、会場に残るごみを減らす狙いもある。

紙は、バナナの繊維で作ったバナナペーパーを使う。実を収穫した後には捨てている茎を利用する。発展途上国の貧しいバナナ産地の雇用を生み出して経済的自立を助け、温室効果ガスを吸収する森林を守る活動の一環。日本のNPO法人が普及に取り組んでいる。

朝日新聞の新聞発行所は、万博会場の内外を結ぶ情報拠点をめざす。

#### ○「地球に吹く風」子どもたちの夢描く メディア朝日

ルーマニア北部のウクライナ国境に近い山間の村。とがった塔のある小さな木造教会が見える。庭でワトリを追う少女に、母親を手伝って日曜のごちそうロールキャベツをつくる少女。映像はそこにある暮らしの豊かさを映し出す。

「メディア朝日」が、愛・地球広場の大型映像装置エキスポビジョンで放映する「地球に吹く風～世界から広場へ」の一場面だ。

中国の伝統芸能・京劇に生きる子どもたちや、北米の極寒の大地で暮らすイヌイットの子どものたち……。いま世界各地で撮影が続いており、5大陸で計20数本を制作。1日に数本上映する。

少年・少女たちの暮らしや夢を、彼らをとりまく美しい自然とともに、高画質の映像で万博会場に届ける。世界の多様性を知り、共有できる価値観を探すねらいだ。

世界を舞台に活躍する各国の著名人から愛知万博に託す「万博メッセージ」も紹介する。

#### ○エキスポビジョン 840インチ画面、楽しさ演出 松下電器産業

愛・地球広場に設置される松下電器産業の大型映像装置「エキスポビジョン」は、屋外では国内最大級となる840インチ画面で、幅20メートル、縦8メートル。「メリーエキスポ」企画などで集めた世界や来場者の笑顔映し出すほか、雄大な大自然の映像も高画質で上映する。

従来より小さくて明るい発光ダイオード(LED)を使い、明るく鮮明な画像を実現した。その画質を生かし、日本の自然の変化を季節の移ろいとともに紹介する「二十四節気」などの映像が、くつろぎの時間を演出する。

松下の企画では、世界の小中学生による「環境」や「交流」をテーマにした映像作品や、動物が主人公となって地球環境を守るミュージカル「動物たちの約束」も上映する。

万博協会は、広場の中継に工夫を凝らす。走り出した人の後ろに残影を映したりする「エクスベリエンス(体験)」という企画だ。

実写映像と立体的なコンピューター画像を合成する最新の画像処理も使う予定。大画面を見ると、後ろから万博マスコットのモリゾーやキッコロが追いかけてくる——。こんな演出を検討している。

#### ○エキスポプラザ・スコープ のぞけば立体映像次々 NTTドコモ・ドコモ東海

マンモスが広場にいる人々の間をのし歩き、池には巨大クジラが浮上して潮を噴き上げる——。NTTドコモとドコモ東海が企画する双眼鏡「エキスポプラザ・スコープ」で見ると、信じられない光景が次々に現れる。

スコープは広場を見渡す一角に5機設置する。あらかじめ仕込んだ立体映像を、現実の背景に合わせ映し出す仕組みだ。照準を合わせれば、体長や生態情報も表示。ほかにも2種類の生き物が登場する予定だ。

スコープの使用時間は1回約3分。行列も予想されるため、待ち時間に映像と音による説明を楽しむよう工夫する。

スコープの頭上にある雲をかたどったオブジェは、暗くなるまで6色に発光し広場を彩る。

ドコモのコンセプトは「未来のモバイル通信」。このバーチャル映像の技術を発展させ、通話中の相手の姿を立体的に映し出したり、都市や観光名所の情報案内を表示したりする新しいモバイル通信をめざすという。

カメラ付き携帯の次は、「メガネ付き携帯電話」が登場しそうだ。

\*

「愛・地球広場」には、松下電器産業、NTTドコモ・ドコモ東海と、朝日新聞社・テレビ朝日・朝日放送・名古屋テレビ放送でつくる「メディア朝日」がオフィシャルパートナーとして協賛する。



愛・地球広場を北から見たイメージ図



「地球に吹く風」に登場するルーマニアの姉妹 = ルーマニア北部のポティツァ村で



松下の大型映像装置「エキスポビジョン」はより高画質だ = 東京都江東区のパナニックセンターで

検索 | 使い方

WEB | サイト内 | 辞書 | 地図 | 買物

- ▶ 新聞購読のご案内
- ▶ アスパラクラブ(無料会員クラブ)
- ▶ 有料記事検索のご案内

愛知万博特集サイトマップ

- ▶ 開催案内
- ▶ 万博会場探検
- ▶ イベントカレンダー
- ▶ 万博の歴史
- ▶ なるほど愛知万博
- ▶ ニュース&トピックス
- ▶ 愛・地球広場
- ▶ 見どころ紹介
- ▶ ビデオギャラリー